

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-148	高等学校	家庭科	家庭総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一学習社	家総 183-901	高等学校 改訂版 家庭総合 持続可能な未来をつくる		

1. 編修の基本方針

1. 家庭科を学ぶ意義がわかる

科学技術の進歩は著しく、人間がA I（人工知能）と共存する社会が出現しています。人生 100 年時代が到来し、私たちの生き方に大きな影響をおよぼす変化が次々に起こるなか、地球の未来を守る持続可能な社会の構築という待ったなしの世界共通の課題に向き合っています。みんなが充実して幸せに生きるウェルビーイングの実現のために、家庭科を学ぶ意義を巻頭で明らかにし、主体的に学ぶ意欲を高めます。

2. 家庭科の学習方法がわかる

「Enjoy 家庭科！」では、生活のなかから課題を見出し、解決策を構想し、実践し、評価・改善する「課題解決型」の学習方法を示しています。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義や実施方法を家庭科学習のできるだけ早い段階で示すとともに、家庭科学習をふまえて実践的な活動を家庭や地域でおこなうことができるようなヒントを、実践例や各章末の「ホームプロジェクト」で豊富に扱っています。また、「Skill Up 家庭科！」では、学びに役立つ手法も紹介しています。

3. 家庭科の見方・考え方がわかる

各見開きページの右上には、主としてとらえる「見方・考え方」の一例を示し、家庭科の目で見て、考えて、「家庭科の学び」を深めることができるようにしています。

4. 持続可能な未来をつくる

世界中の多様な人々が自分らしく暮らせる社会、誰も置き去りにしない世界を、家庭科の学びを通してめざします。SDGs の 17 の目標については、本文中の関連箇所にマークを付して意識しやすくしています。

5. 生涯を見通す

1 章 1 節「生涯の生活設計」で、生涯発達の考え方、生涯を見通すという家庭科学習の視点をわかりやすく伝えとともに、2 章以降でも、常にライフステージを意識し、生涯を見通した学習ができるよう記述を工夫しています。

6. 主体的・対話的で深い学び

実習や実験・体験だけでなく、授業の導入などに短時間で取り組める「Try」を豊富に取り入れ、自分の考えをまとめたり、グループで発表や話し合いに取り組んだりすることで、主体的・対話的な学びをバランスよく取り入れることができるよう工夫しています。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
家庭科を学ぶみなさんへ	・家庭科は持続可能な生活をめざす教科であることを知り、持続可能な社会の構築には多くの世代・多様な人たちの参画が必要であることがイメージできるようにしています（第 4 号）。	見返し③ ～p. 1
Enjoy 家庭科！ 章末「ホームプロジェクト」	・家庭科で学んだことを自分の生活に照らして考え、課題を見つけ、それを解決するためにおこなう実践活動である「ホームプロジェクト」、学校や地域の生活の充実をめざす「学校家庭クラブ活動」を通じて、幅広い知識と教養を身に付けることができるよう配慮しています（第 1 号）。	巻頭②～⑤、 p. 34・60・76・ 88・150・196・ 218・240
Skill Up 家庭科！	・問題の発見、調査・情報収集、ほかの考えを持つ人との対話、自分の考えの表現方法などが身に付くよう、さまざまな手法を紹介しています（第 1 号）。	巻頭⑥～p. 1

1 章 これからの生き方と家族	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮しています（第1号）。 ・無償労働と有償労働の特徴、ワーク・ライフ・バランスなどを扱い、職業観・勤労観が身に付くよう配慮しています（第2号）。 ・自分とは異なる他者の考えを受け止め、互いを尊重する関係的自立を築くことで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫しています（第3号）。 ・家族・家庭の抱えるさまざまな問題を取り上げ、多様な家族を支えるさまざまな手立てや法律を学び、生命を尊ぶ態度を養うことができるようにしています（第4号）。 ・各国の結婚制度などを紹介し、他国を尊重する態度を養えるよう留意しています（第5号）。	p. 12～13 p. 16～17 p. 14～15 p. 26～29、 p. 30～33 p. 28～29
2 章 次世代をはぐくむ	・親になることや、子育てを社会全体で支えていくことについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮しています（第1号）。 ・社会全体で子どもを育てていくための取り組みを紹介し、自らも職業生活と子育てを含む家庭生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮しています（第2号）。 ・男女がともに子育てにかかわっていくには、妊娠中からの意識改革も必要であり、男女が協力して子育てを担うことの大切さが伝わるよう記述や資料を工夫しています（第3号）。 ・子どもの心身両面での発達の特徴や、親の役割、乳幼児期の健康や安全を守るためにどのような配慮が必要かなどを学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意しています（第4号）。 ・世界に目を向けて、過酷な環境で生きる子どもたちの事例を紹介し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意しています（第5号）。	p. 36～37 p. 54～55 p. 38～39、 p. 46～47 p. 40～53 p. 56～57
3 章 充実した生涯へ	・超高齢社会を生きる私たちの課題について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的に考察できるよう配慮しています（第1号）。 ・高齢期の生活の安定を支えるための、国や行政によるさまざまな取り組みを紹介し、自らも職業生活と家族の介護を含む家庭生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮しています（第2号）。 ・人生のなかで高齢期をとらえ、理解を深めることで、高齢者に対する敬愛と支援・協力を重んずる態度を養うことができるよう留意しています（第3号）。 ・高齢者の介護にはどのような配慮が必要かを学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意しています（第4号）。 ・世界のなかで長寿化の最先進国に生きていることを知り、我が国と郷土を愛する態度につながるよう留意しています（第5号）。	p. 62～63 p. 68～71 p. 64～67、 p. 72～73 p. 69 p. 62
4 章 ともに生きる	・社会保障制度のしくみについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮しています（第1号）。 ・社会全体で互いが支え合う社会的連帯の考え方が社会保障制度の基盤であることを学び、社会の担い手として、自主及び自律の精神を養うことができるよう配慮しています（第2号）。 ・一人ひとりの主体的な社会参加が、持続可能で活力ある生活、地域、社会を形づくっていることを記述しています（第3号）。 ・さまざまな人への支援を学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意しています（第4号）。 ・ソーシャルインクルージョン、アフターマティブアクションなどの諸外国で生まれた考え方が我が国でも根付いてきていることを知り、他国を尊重する態度につながるよう留意しています（第5号）。	p. 78～79 p. 78～79 p. 80～81 p. 86～87 p. 80～83

5 章 食生活をつくる	・食生活をめぐる課題を取り上げ、毎日の食事が健やかな身体づくりと深く関わっていること、特に、青年期の食事の重要性が実感できるよう配慮しています（第1号）。 ・実習を通して自らの生活を創造する力を培うとともに、男女がともに生活力を高め、家庭生活と職業生活をバランスよく両立する意欲を高めることができるよう配慮しています（第2号）。 ・自分たちの食生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意しています（第3号）。 ・食生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、サステナブルな視点を示すとともに、事例をあげながら具体的に扱っています（第4号）。 ・世界無形文化遺産に登録された和食や、行事食などを取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意しています（第5号）。	p. 90～95、 p. 102～133 p. 134～149 p. 96～97 p. 96～97、128 ～133、150 p. 98～101
6 章 衣生活をつくる	・被服材料や被服の管理方法について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう、また、衣生活をめぐる課題を取り上げ、被服の着装が健やかな身体づくりと深く関わっていることを実感できるよう配慮しています（第1号）。 ・実習を通して自らの生活を創造する力を培うとともに、男女がともに生活力を高め、家庭生活と職業生活をバランスよく両立する意欲を高めることができるよう配慮しています（第2号）。 ・自分たちの衣生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意しています（第3号）。 ・衣生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、事例をあげながら具体的に扱っています（第4号）。 ・衣文化の伝承と創造として和服を取り上げ、また、浴衣の着方などを紹介することで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意しています（第5号）。	p. 160～173 p. 180～195 p. 176～179 p. 176～177 p. 174～175、 196
7 章 住生活をつくる	・生涯を見通した住まいの工夫について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮しています。また、住生活をめぐる課題を取り上げ、住まいの維持管理が健やかな身体づくりと深く関わっていることが実感できるよう配慮しています（第1号）。 ・平面図の読み取りや、室内計画を通して、自らの生活を創造する力を培うことができるよう配慮しています（第2号）。 ・自分たちの住生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意しています（第3号）。 ・住生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、事例をあげながら具体的に扱っています（第4号）。 ・地域特有の伝統的な住まいの例や、その気候・風土に応じた工夫、和室の特徴などを取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意しています（第5号）。	p. 206～209、 218 p. 202～205 p. 216～217 p. 214～215 p. 198～201
8 章 経済生活をつくる	・私たちの暮らしと経済とのかかわりについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮しています（第1号）。 ・消費者問題の発生過程やトラブルへの対処法を学び、自立した消費者として、自主及び自律の精神を養うことができるよう配慮しています（第2号）。	p. 220～225 p. 226～231

	・消費者としての権利が保障される一方で、消費者としての責任を負う必要が生じることを学び、社会に対して果たすべき責任を自覚させるよう考慮しています（第3号）。 ・持続可能な社会をめざして、資源や環境に配慮した生活を営むことができるよう、消費行動を見直し、主体的に行動することの大切さを示しています（第4号）。 ・消費行動を通して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意しています（第5号）	p. 234～235 p. 234～235 p. 236～237
巻末資料① 食品成分表	・食品について、幅広い知識と教養を身につけ、栄養摂取に関する多角的な考察ができるよう配慮しています（第1号）。	p. 241～245、
減災・防災 ハンドブック	・家庭科の学びを生活に活かし、減災・防災を常に意識することで、生命を尊び、自然を大切にすることを養えるよう留意しています（第4号）。	p. 250～251
後見返し	・豊富な資料をいつでも確認しやすい位置に掲載し、食生活に関する幅広い知識と教養を身に付けることができるよう工夫しています（第1号）。 ・旬の食材などを取り上げ、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮しています（第4号）。	見返し④～⑧ 見返し④
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
・学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の規定を踏まえ、私たちの暮らす社会や生活は、さまざまな法律によって成り立っていることが実感できるよう、巻末資料③として「暮らしとかかわる法律」を紹介しています。		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-148	高等学校	家庭科	家庭総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一学習社	家総 183-901	高等学校 改訂版 家庭総合 持続可能な未来をつくる		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 完全見開き展開と「学習ポイント」「振り返ろう」

学習を進めやすいよう1テーマを見開き2ページでまとめ、タイトル横に「学習ポイント」、右ページ下に「振り返ろう」を置き、学習内容の定着を図れるよう工夫しました。

2. 理解しやすい本文記述と視認性を高めた「重要語句」

ポジティブな書き方や感覚を意識し、わかりやすさを追求した本文記述により、学ぶ喜びが感じられる教科書をめざしました。また、重要語句は総ルビとし、視認性を高める書体・デザインを工夫しました。

3. 本文理解を助ける「図版・写真・資料」

利用価値の高い図版・写真・資料を取り上げ、本文理解を助け、よりいっそう学習効果が高まるよう留意しました。図版の作成にあたっては、ユニバーサルデザインの観点から、だれも見やすく理解しやすい表現となるよう工夫しています。また、資料を読み取る「POINT」を付記し、思考力の向上もめざしました。

4. 主体的・対話的で深い学びを実践する「深めよう・活かそう」

主体的・対話的で深い学びを実践するため、考えを深める資料や、生活に活かす活動例を豊富に取り入れました。教室にとどまらず、地域や世界に向けて発信する力も養えるよう、題材を工夫しています。

5. 取り組みやすい「実習」「実験」「体験」

1分程度で実習内容の概要がつかめる「動画」を用意し、興味・関心を喚起するよう工夫しました。調理実習では食物アレルギーに配慮した補足資料も用意しています。家庭科の知識や技能を科学的な根拠に基づき体験的に学習する「実験」、地域と学校が連携・協働して取り組む「体験」も取り入れました。

6. 食品成分表（巻末資料）

調理実習で扱っている食材、日常よく使用する食材については、日本食品標準成分表のデータを掲載し、栄養価の確認などの際の利便性を高めました。

7. 家庭科の学びを実践で活かす「クロスカリキュラム」

分野の枠を超えて取り組める実践例を取り上げました。教科書の最後には、家庭科の全分野を学んだ高校生として、家庭や地域に貢献する際の参考となるよう、「減災・防災ハンドブック」をまとめました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
家庭科を学ぶみなさんへ	A～D	見返し③～p. 1	1
Enjoy 家庭科！ 家庭科の学び方ー学習から実践へ ホームプロジェクトとは 家庭科の学びを広げよう 学校家庭クラブ活動とは	D	p. 2～5	4
Skill Up 家庭科！	A～D	p. 6～9	—
1章 これからの生き方と家族	A－(1)・(2)	p. 11	9
1節 生涯の生活設計		p. 12～21	

2 節 家族・家庭と社会とのかかわり		p. 22～33	
ホームプロジェクト 男女共同参画“家庭”をめざして	D	p. 34	1
2 章 次世代をはぐくむ		p. 35	
1 節 子どもの発達	A－(3)	p. 36～45	7
2 節 子どもの生活		p. 46～51	
体験－子どもとのかかわり方を学ぶ		p. 52～53	4
3 節 子育て支援と福祉		p. 54～59	2
ホームプロジェクト 妹と母のための地域の保育サービス調査	D	p. 60	1
3 章 充実した生涯へ	A－(4)	p. 61～75	5
ホームプロジェクト 祖父との交流から－1 か月 1 時間プロジェクト	D	p. 76	1
4 章 とともに生きる		p. 77～85	2
体験－さまざまな人への支援を考えよう	A－(5)	p. 86～87	4
ホームプロジェクト 祖母に地域情報を届けよう	D	p. 88	1
5 章 食生活をつくる		p. 89	
1 節 人の一生と食事	B－(1)	p. 90～101	18
2 節 栄養と食品		p. 102～119	
3 節 食生活の安全のために		p. 120～123	
4 節 食生活をデザインする		p. 124～133	
調理実習		p. 134～149	20
ホームプロジェクト わが家のサステナブルクッキング	D	p. 150	1
6 章 衣生活をつくる		p. 151	
1 節 人の一生と被服	B－(2)	p. 152～159	12
2 節 被服材料		p. 160～163	
3 節 被服管理		p. 164～173	
4 節 これからの衣生活		p. 174～179	
5 節 被服の製作		p. 180～185	
被服製作実習		p. 186～195	16
ホームプロジェクト 衣服を長く生かす工夫－刺し子をヒントに	D	p. 196	1
7 章 住生活をつくる		p. 197	
1 節 人の一生と住まい	B－(3)	p. 198～209	9
2 節 住生活の計画と選択		p. 210～217	
ホームプロジェクト 住まいの健康度をチェックしよう	D	p. 218	1
8 章 経済生活をつくる	C	p. 219	
1 節 私たちの暮らしと経済	C－(1)	p. 220～225	9
2 節 消費生活の自立に向けて	C－(2)	p. 226～235	
3 節 持続可能な社会をめざして	C－(3)	p. 236～239	
ホームプロジェクト SDGs 達成へ－わが家のアクションプラン	D	p. 240	1
巻末資料① 食品成分表	B－(1)	p. 241～245	－
巻末資料② 食事バランスガイド	B－(1)	p. 245	－
巻末資料③ 暮らしとかかわる法律	A～D	p. 246～247	－
インタビュー	A～D	p. 248～249	－
減災・防災ハンドブック	A～D	p. 250～253	－
後見返し	B－(1)	見返し④～⑧	－
		計	130

※年間授業時数を 130 時間として配当しています。

※巻末資料①②と後見返しの配当時数は 5 章に、Skill Up 家庭科！と巻末資料③、インタビュー、減災・防災ハンドブックの配当時数は 1～8 章に含まれます。